

人権さんだ

1 月号

令和4年(2022)

No.514

子どもたちからのメッセージ
～人権作文から～

《問い合わせ》
福祉共生部共生社会推進室人権推進課
TEL : 559-5148 FAX : 562-1294
E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp

本年度の「人権と共生社会を考える
市民のつどい」はYouTube配信
(12月4日～19日)により実施しま
した。



子どもたちは、地域住民にとって大きな希望であり、共に生きる社会の仲間です。地域には、いつも温かいまなざしで見守ってくださる人が多くいて、その中で、子どもたちは伸び伸びと育っています。

一方で、学校は大人社会の縮図とも言われるように、いじめや不登校、インターネットによるトラブルなど、今の世相を映しているかのような問題も見受けられます。

しかし、子どもたちは毎日の学校生活の中で、社会のあり方を学び、考えています。

学校では、高齢者や障害のある人などを含むすべての人が、地域の中で自分らしく生活できる環境づくりの大切さを学ぶ授業が行われています。また性的マイノリティをはじめ、生きづらさを感じる人々について学習し、様々なことを感じ成長しています。

その「学び」から感じたことを、子どもたちは作文や標語、ポスターなどで発信しています。

子どもたちの声に耳を傾けてみると、新しい気付きに出会い、何かを発見できるかも知れません。

子どもたちの思いを届けます

今号では、市内の小・中・高等学校に在籍する子どもたちが書いた人権作文を掲載します。

いずれも、12月にオンラインで実施した「人権と共生社会を考える市民のつどい」において発表された作品です。子どもたちの思いは、私たちにどのような気づきを与えてくれるでしょうか。

なりたい自分

三田市立つつじが丘小学校6年

吉原 ゆずさん



みなさんは性別同一性障害を知っていますか。

私は、性別同一性障害は障害ではない、と思いましたが、理由は、だれにでも好きな事、好きな物があります。それと同じで「自分が好きな性別になりたい」と思うことは自由だからです。

私は女の子です。でも服や、見た目、髪型などカッコいい方が好きです。それと同じで例えば体は女の子であっても、カワイイ服ではなくてカッコいい服の方を好んで着るなど、見た目

も髪型もカッコいい方が好きな人もいると思います。私もカッコいい方が好きなので髪型や服装が男の子に近いです。実際に、私は今六年生で朝休みの時に一年生の所に行って一緒に遊びました。その時に私は一年生に男の子だとかんちがいされて、遊びで叩かれました。最初は「小さいからしょうがないなあ」とは思っていたけど、だんだん見た目だけで男の子とかんちがいされたと思うと辛い気持ちになってきました。他にも、下校中、地いきの方から、間違えられた事があります。

「男の子でも赤色のくつをはくんやね」と言われました。その時周りにいた同級生から、地いきの方に言われたことだからかわれて、すごく傷ついたことがあります。見た目だけで男の子とかんちがいされました。

私は、女の子です。私は女の子として生きていくのに見た目だけでかんちがいされ悲しい体験をしました。きつと性別同一性障害の人たちも体は女の子でも心は男の子という人だったら、「女の子でしょ」と言われると、きつと「自分は男の子がいいのに」と思うでしょう。私は自分の好きな髪型にしたり、着たい服を着たりしています。でも、性別同一性障害の人たちは親に言っても認められなかったり相談できなかつたりする人もたくさんいます。



だから服も、髪型も自分の好みの髪型や服を着ないで過ごしている人もたくさんいると思います。私は体も心も女の子です。でもカッコいい髪型や服装が好きです。好みの問題だと思いません。でもその事だからかわれた

経験があるから性別同一障害の人達の辛さや、しんどい気持ち私には少し共感できました。去年の六年生に自分のことを「ぼく」と呼ぶ女の子がいました。服装も髪型もとってもカッコよくて私はその子みたいになりたいなと思いましたが。その子のクラスのみんなは受け入れていて心から楽しそうにしていました。

そんなふうにならなくていいな」とおたがいが個性を認め合える世の中になってほしいです。

私にとってなりたい自分になるうとしていく人はすごく魅力的です。自分に自信をもって生きていきたいし、世の中の人達もそんな風に生きられたら素敵だと思います。

カラフルが好き

三田市立けやき台中学校1年

大本 花香さん



障害があるとかないかは他人が決められるのはどうだ

ろうかと思つています。これは、自分自身が決めることではないでしょうか。

私は、生まれた時から足が悪いです。だからといって、障害があるという意識はしていません。みんなと同じです。歩いている時にじっと見られたり、くすくす笑われていたりしたらとても悲しいです。誰もがみんな、自分自身が普通だと思つています。なぜなら、これは自分の基準で判断しているからです。

例えば、耳が聞こえない人たちが楽しく手話をしていたとします。自分だけ手話がわからなかったら、とても辛くなると思います。しかし、耳が聞こえない人たちにとって手話は、コミュニケーション手段の一つとして普通のことなのです。つまり、周りの人たちが自分のおかれた環境によって、「普通」は変わってきます。だから、普通かどうかということは、他人が決めるれないものなのです。

私は、小さい頃からいろんな色の折り紙が大好きです。それぞれの色がみんないいと思つています。箱の中に、色とりどりの色紙があるとワクワクするの

で、使わずに大切にしまつていたこともあります。



人によつては、好きな色と嫌いな色があるかも知れません。でも、要らない色は絶対（ぜったい）にありません。黒は暗い色だけれど、白色や黄色を夜空みたいに輝かせます。名言集で知ったことなのですが、ココ・シャネルは「黒は美しい」と言っています。女性を引き立たせる色だと思つたそうです。茶色は、地味で目立たない色なのですが、見方を変えると甘くておいしいチョコレートの色だとも言えます。ミルクチョコやダークチョコ、か

んだらアーモンドチョコプレートだったなんて考えると楽しくなります。これは、私たちの個性と似ています。全員が白色や黄色ばかりだと目がチカチカして、

きつとけんかをしてしまうでしょう。また、同じ茶色でもひとりひとり違うのです。大人も一緒です。私の担任の先生は柔らかい空色です。たまに、濃い青になります。まだ、嵐の空は見たことがあります。

興味や関心、性格が同じ人ばかりのクラスよりも、それぞれ違った考えを持ち、それを認め合えるクラスの方がきつと楽しいです。苦手なところはお互いに補い合えばいいと思います。自分と違うかどうかで区別する必要は全くありません。

私は、カラフルが大好きです。



「らしさ」とは何か
兵庫県立三田西陵高等学校2年
三方 柚花さん

日常生活を聞いてみると「らしい」という言葉をよく耳にするところがある。中

でも「男らしい」「女らしい」は誰もが使つてしまう言葉なのではないだろうか。周りを見ればいわゆる女らしいかわいい子もいる。誰もが理想とする女の子だ。私たちは無意識のうちに流行りの人になれるようにしようとしている。そうでなければ「男らしくない」「女らしくない」と言われてしまうからだ。

では、女は女らしい格好をして女らしい行動をすることだけが「らしさ」なのだろうか。当然、男らしく、女らしくなりたいと思うことは悪いことではないだろう。しかし、そればかりを意識して「自分」を忘れていないだろうか。私は「自分らしさ」も大切だと思う。見本通りの完璧な人形を作つたつて、自分らしさを押し殺してしまつてはそれは個性でもなんでもない。それに性差を押し付けることをしない時代だ。「男」「女」を区分するという根本的なことから考え方を変えなくてはいけないのかもしれない。

では、どうやってこの社会を変えていくのか。私が思うに、

【4ページに続く】

「にじいろ」



三田学園中学校1年
江川 心悠さん

現在は性差をマスメディアによって完璧な人間であることを推奨されているかのようだ。また、それは”普通“であることを強調しているようにも思える。性差を強調したドラマやアニメ、漫画の描写などテレビや本からの影響は大きいと思う。だからこそ描かれる世界を”あたりまえだ”と”普通”と捉えてしまいがちなのだ。

次に完璧すぎる人間の推奨。人間は誰にでも苦手なこと、できないこと、いわゆる短所を持っている。完璧な人間なんてない。だからいいのだ。みんな何か欠けているところがあるから、みんな違うから楽しいのだ。おもしろいのだ。ロボットのようにならなくて完璧だなんて、そんな世界の何がいいのだろうか。でも、物語で描かれるのは欠点

のない人間が多い。最後に”普通“を強調すること。ここまで何度か”普通“という言葉を使ってきたが”普通“とは何なのだろうか。平均的であること？あたりまえのこと？ではみんなと同じでないといけないのだろうか。前に言ったようにみんな違うからいいのではないのだろうか。どんなに人と違っていても、どんなに人より苦手なことが多くても、自分なことから。私がここで伝えたかったこと、言いたかったこと、それは自分らしさを大切にできる社会にしたいということだ。世界中どこを探したって自分と同じ人間はいない。みんなどこか違う。だから自分を大切にすべきだと思う。

私は小さい頃、成長が遅かった。

た。何をするのに時間もかかってしまい、何か一つできるようになった時にはすでに周りの子どもはもつと多くのことをできるようになっていた。でも今は困ることなんてないし、時間をかけてできるようになったからこそ得意なことだ。みんなと同じじゃなくていい。自分は自分らしくあるべきだ。誰かに合わせなくていい。自分の意見を持つことは素晴らしいことだ。だからそんな自分も受け止めて、そんな自分も理解してあげてほしいと思う。

私は今まで自分を嫌いになったことがある。でも、自分の嫌いなところだとして自分なのだ。自分らしさがわからなくなっても、そのときには何度も自分に聞いて、少しずついい、自分らしさを見つけ、自分という一人の人間を大切にしていきたい。



令和3年度
人権標語・ポスター受賞作品



● 知っていた？
君にしかない
色がある
富士中学校3年
岡田 麻緒さん

人権に関する総合相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談（予約）

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員会による定例人権相談（予約）

TEL 559-5148 FAX 562-1294
《次回相談日》1月27日（木）13時～16時